

第 2 回国際センター駅北地区複合施設基本構想に関する懇話会について

1 概要

- (1) 日時：令和 4 年 11 月 29 日（火） 13 時から
- (2) 場所：仙台市役所本庁舎 2 階 第五委員会室
- (3) 議題：複合施設としての理念について
複合施設の「目指す方向性」の実現に向けた具体策について 等

2 主な委員発言

【委員からのプレゼンテーション】

- (1) 東京文化会館における、1 人 1 人のライフステージに寄り添った取組、様々な主体と連携した取組等の紹介（梶委員より）
- (2) 市民の参画を重視し、様々な人が自由に活動できる場を提供する市民施設・文化創造施設の事例紹介（本江委員より）

【複合施設の「目指す方向性」の実現に向けた具体策についての主な委員発言】

- ・「音楽」や「記憶」に耳を傾ける機能に壁を作らず有機的に繋げることが大事。
- ・アートやメモリアルの連携により、日常的に市民が「平和」を再定義できる施設に。
- ・「新しい広場」として、市民の多様な活動に応えることが大事。
- ・施設に来た時に「仙台・東北とは何か」という問いが起きたり、考えたりすることができるような場となるべき。
- ・日常的な場、特別な場の双方を兼ね備えた施設に。
- ・両分野でこれまでも実績のある「音楽の力による復興センター・東北」が、2 つの施設をつなぐ役割を果たせるのでは。
- ・文化芸術とメモリアルのための施設であるという根幹を揺るがせないことが重要。
- ・文化は人間の生活の本質であり、それが都市の価値にもなる。
- ・ジェンダーや国籍など次世代の多様性への対策を盛り込んでいくことが重要。
- ・幅広い市民・団体が参画できるような施設のあり方を模索していくべき。
- ・ハレとケが切り替わることが大事。さらに、これから起こる災害という「第三の時間」のことも見据える必要がある。

【複合施設としての理念についての主な委員発言】

- ・「3.11 という出来事がこの施設の起点であること」を理念として位置付けるべき。
- ・空間的な連続性や歴史的なつながり、その 2 つを 1 つの言葉で誰もがわかる理念やネーミング、ロゴを含めた一連のツールを一体に考えることが大切。
- ・日常と特別な時間、過去と未来など、相反する価値が同居できる場であるという切り口が大事。
- ・重視すべき言葉として、「みんなが」「市民主体」「創造」「参加」「つなぐ」「次世代」「人や街を育てる」などが考えられる。